令和７年度「知事と市町長の円卓対話」（鳥羽市）概要

１　対話市町　鳥羽市（鳥羽市長　小竹（こたけ）　篤（あつし））
２　対話日時　令和８年３月24日（火）13時00分から14時00分
３　対話場所　鳥羽マリンターミナル　２階　交流ラウンジ
　　（鳥羽市鳥羽１丁目2383-51）
４　対話項目
（１）国道42号鳥羽駅前における無電柱化の推進について
（２）三重県立鳥羽高校の存続について
（３）答志島における海岸漂着物対策の推進について
ー　鳥羽市営定期航路事業の船員確保について

５　対話概要

対話項目（１）国道42号鳥羽駅前における無電柱化の推進について

（市長）

それでは無電柱化の問題についてお願いをさせていただきたいと思います。まずは知事にこれを見ていただきたいと思います。鳥羽市では、鳥羽駅周辺エリアの2040年将来ビジョンを策定しておりまして、３月末に公表になります。これは案の段階のものになりますが、今、佐田浜エリアを中心に2040年を目途にしながら、或いは2033年の式年遷宮、ここで一部実際に稼働できるような計画を策定させていただいたところです。これはビジョンですので、これから来年度に向けて、実際にどのような建物がふさわしいのか、どのように変えていくのかという具体的な事業計画をこれから策定していくところですが、その中で一番早く進めたいのが国道42号の無電柱化でございます。ここをぜひご協力をいただきながら進めていきたいと思っております。

この中にこういう絵を描かせていただいているところがありますが、ここの中には国際観光都市と言われる鳥羽市にふさわしい玄関口を作るには、やはり電信柱の支線が非常に気になるということで、これは私が撮った写真ですが、ちょうど鳥羽駅方面から、この離島の方を見たところです。電信柱の電線、これが何とかならないものかと。これは、景観はもちろんですが、防災という観点からも、津波が心配される場所ですので、電信柱が倒れることによって交通の妨げになるということはよくあります。能登半島でも、顕著にありましたので、地中埋設をしていただきたいと思います。最近は、ＡＩが賢くて、この写真の電線を消してくれと言ったら見事に消してきまして、見ていただきますように、やっぱり全然景色が違うものができ上がってきます。私は時々、近鉄の普通電車に乗るのですが、鳥羽駅から中之郷駅に行くまでのミキモト真珠島や

鳥羽水族館に至るところがすごく景色がいいです。今日も大変綺麗に見えると思うのですが、これを観光客の方にもぜひ見ていただきたい。そういう意味で、このような無電柱化のお願いをさせていただくことになりました。

それで現在の状況を聞かせていただくと、来年度、県の事業計画の中で、三重県無電柱化推進計画が検討されるということで、市の職員とも話をしたら、この中に鳥羽の無電柱化の計画を入れていただくようにお願いすると事業化も早くやっていただけると聞いているところです。これは、国、県、それから市でも、その辺のことをしっかりと検討しながら、市としてもやれることをやっていきたいと思っていますので、ぜひ無電柱化推進計画の中に入れていただきながら進めていただきたいと思っております。私も結構旅行とか好きで、あちらこちらの観光地に行かせていただきますが、有名なところで観光客が集まるところは、ほとんど電信柱を地中化しているところが多いです。伊勢市も見せていただきましたが、今盛んに無電柱化が進んでいるというところです。鳥羽市は残念ながらまだ地中埋設したところがないというような状況ですので、何とかお力添えをいただいて、ここは三重県の中でも海の玄関口であり、これだけ海が綺麗に見える駅前というのは鳥羽しかないということで、１つ目の項目にさせていただきました。

（知事）

無電柱化については市長がお話されたように、国道 42 号が緊急輸送道路に指定されていますので、そういう意味でここは大動脈になっており、地震災害が来たときに、電柱が倒れて死傷するということになると困るというのはよくわかります。

それから鳥羽市はやはり観光で売っていかないといけないということで、我々も国土交通省に働きかけて、観光庁の予算もつけてもらって、ホテルや旅館の改修も含めてやっていただいており、県としても、観光の予算をつけながらやらせていただいています。クルーズ船がたくさん来るというのは本当にいいことだと思いますし、やはり鳥羽の最大のメリットは駅と港が近い、こんなに近いところはないですし、それから水族館やミキモト真珠島などの観光名所が近くにあります。それから離島も近いので、離島を使った観光というのをできたらやっていただいたらと思っておりまして、そのために離島航路の運賃を観光客と住民で変えて欲しいと、このことは前から鳥羽市にお願いしているのですがなかなか実現しません。もう運輸局の了解をとっているので制度的にはできますと言ってもらっています。それもやっていただきながら観光客に沢山のお金を落としてもらって、まずは鳥羽市の発展にそれを使っていただいていいのではないかと思っていますが、それは少し別の話です。

今、この電柱の地中埋設、無電柱化は、国の予算を使いながら進めているのですが、予算が潤沢にあるわけではありません。三重県も今までに亀山市の関の無電柱化をやり、今は、伊勢市をやっております。伊勢の無電柱化はもう10年20年前から手を挙げていただいて実施しているところであり、2033年の次期遷宮に向けてとにかく頑張りましょうというところです。

今回、鳥羽市がやりますと仰っていただくことになると、他にもやりたいというところが出てきますので、計画の中には位置付けていかないといけないですね。ちょうど鳥羽駅から鳥羽水族館まで約650メートルあると伺っておりますが、そこをまずやってという話も伺っていますので、よく相談をさせていただいて、次の計画に、最終的に国の了解を得ないといけないのですが、そこもよく話をしながら、まずは鳥羽市がどのような計画をお持ちになっておられるのか、これを県の担当部局である県土整備部でお話をお伺いしながら形にしていきたいと思っております。

（市長）

はい。ありがとうございます。お話いただいたように、ここへ来る船が、来年度は41隻来られる予定で、多分３万人ぐらいの方がここに降りられるのではないかと思います。歩いてミキモト真珠島の方へ行かれる方が多くあり、そこに行く道を「かもめの散歩道」と呼んでおりますが、気持ちよく歩いていただけるようにということで、鳥羽市としても、令和８年度の秋頃には、無電柱化の推進計画を市独自で作らせていただいて、あとはその利用者である中部電力やＮＴＴの方とも独自で一緒に協議をさせていただくということで担当課には指示もしながら、何とか進めていきたいと思っておりますので、先ほどお話がありました県の推進計画にぜひ載せていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

対話項目（２）三重県立鳥羽高校の存続について

（市長）

少子化でございまして、なかなか厳しい地域の人口減、特に若年層の社会減、それから自然減、これが非常に大きく、これも鳥羽市に限ったことではないですが、非常に大きな課題でありまして、鳥羽市も何とかしなくてはいけないということで、来年度予算には子育て支援の予算をかなり重点的に置かせていただきました。ただ、子育て支援を置いたからといって、若い方が鳥羽市で生活していただけるのかというのはやはりちょっと違ってくるのかなと思いますので、子育て支援を第１弾として、これから若者に暮らしていただくための住宅の問題、それから商業地の問題、様々な問題を解決していく必要があると

考えております。その中で鳥羽高校のことですが、２年前に 40 人１学級ということになりました。同時に、志摩高校、南伊勢高校度会校舎も１学級ずつになったのですが、南伊勢高校、それから志摩高校は残念ながら令和 10 年度入学者選抜（令和９年度実施）から募集を停止するという決断がされております。

鳥羽市としては、次は鳥羽高校かということで非常に悩みどころでありまして、県立高校が１つなくなるというのは、我々にとっても非常に大きなダメージでありまして、試算によりますと１年間、高校を維持するのに大体１億円ぐらいの経済的な効果があるのではないかと発表しているところもあります。特に最近、総合学科という中で、県立鳥羽高校は地元とのコラボを盛んにやっておりまして、「とばっこくらぶ」という、株式を上場するということを勉強させていただくカリキュラムがあるのですが、ここでは商品開発で地元企業の方にも一緒に入っていただいてセールスをすると、市場も開くというところが随分と定着してきまして、地元の皆様も鳥羽高校のイメージが随分と変わってきたと聞かせてもらっています。

その中で、高校の先生とも話をさせていただきましたが、１学級規模の高校というのは生徒たちの多様な学びが提供できないということで、先生の数、それから部活動にしましても、１学級 40 人という規模ですと難しいという話を聞かせていただいております。

そこで、知事に聞かせていただきますが、現在、国の制度で小中学校は 35 人学級が進んでおりまして、来年は、中学校１年生まで 35 人学級が実施されるとお聞きしております。それで、三重県も単独で中学校２年生については 35 人学級と、私はもともと三重県で義務教育の教師をしていましたので、その辺は三重県が非常に教育に力を入れているということの証に学級の柔軟な対応をずっとしていただいていたのですが、県立高校についてはなかなかその辺をやっていただけないところがありまして、特に、この周辺地域になりますと、40 人はなかなか確保できないところができてきますと、30 人とか、35 人とかいう柔軟な学級の編制も視野に入れていただいていいのではないかと思いますが、その辺のところ、もしよろしかったらお考えを聞かせていただければと思っています。

言い忘れましたけど、もう１つ「鳥羽っ子学習」というのをやっていまして、非常に鳥羽の地元のことを研究しながら発表している様子ですが、とにかく地元に随分密着してもらいながら進めておりますので、三重県 14 市の中で、もし鳥羽高校がなくなると県立高校がなくなる市が鳥羽市だけになる可能性もありまして、伊勢市が近いのでそちらに行ってしまうこともありますが、何とか地元の子どもたち、それから南勢地区の子どもたちに総合学科としても

特色がありますので、その辺の学びを保障していただきたいと思っていますが、いかがでしょうか。

（知事）
　はい。地元の子どもたちに郷土愛を持ってもらうことが一番大事だと思っておりまして、とにかく、幼い頃から、もう小学校の頃から、私も小学校４年生か、５年生ぐらいのときに「三重の姿」の副読本があって、亀山の小学校で学んだ覚えがあります。そういうことをもっと強化していかないと東京や名古屋、大阪、京都に出ていって帰ってこないことになるので、さらに強化していこうとしているところです。やはり子どもたちに郷土愛というのを育てるというのは一番大事なことで、そういう意味では、鳥羽高校でそういうカリキュラムを組んでいただいたのは本当ありがたいことです。
　やはり最大の問題は人口減少です。これは知事になる前、選挙のときから、もう絶対に大きな問題になると言っておりました。その時はまだ周りではあまり言われていなかったのですが、そのあとの参議院選挙ぐらいとき、あと統一地方選挙のときは、言わない人がいないような大きな問題になっています。だけど、これはもう 30 年、40 年前に手をつけていかないといけない話で、それをやってこなかった。これは国全体の問題で、それをやってこなかったのです。だから、今、各地で大変なことになっているということですが、少しでもその減り方を緩やかにしようということで、知事就任後すぐに、人口減少対策課を作っていろいろやっていますが、なかなか難しい問題です。
　今、生まれた子どもが中学を卒業するときが令和 22 年になります。これを県内でみると、中学校の卒業者数というのは、今から 15 年間で 42%減ってしまいます。伊勢志摩地域では 51%減ります。鳥羽市では 69%減ります。これらは、生まれた子どもの数がわかるので、推計値ではなくてほぼわかっている数値になります。その上に社会減が入ってくるともっと減ってきますので、これは、何とかしないといけないことです。
　これを何とかしようということで、これも知事になってやり始めたのですが、みえ子ども・子育て応援総合補助金を作りまして、各市町がされる子育て事業を県が２分の１、３分の２を支援することにしました。人口減が大きいところが３分の２ですが鳥羽市は確か３分の２だったと思いますが、支援させていただいています。額的には少ない額です。
　加えて子ども医療費についても原則半分を県が支援するということで、ようやく来年度予算から中学の通院まで、県が支援することができるようになりました。実は、この予算は今まで市でやっていただいた予算の肩代わりなので、父兄の方、子どもさんにとっては実はメリットがあんまりないのですが、市に

とっては、その部分を県が支援するので、一定の予算ですけど自由に使えるお金になるわけで、県は、この予算を各市町に対して子育てに使って欲しいと、それはもちろんその市の独自性がありますので、県が何かを言うことはできないのですが、子育てに使わないと、そこに残る人が少なくなり、結局、困るのはその市なので、ぜひそれを子育てに使っていただきたいと思っています。

子育てしやすい場所になれば、子どもたちが残ってくれる可能性があります。だけど、それだけでは残ってくれません。やはり、もうひとつは就職先です。就職先がないと残ってくれません。働く場所が大事で、今日の朝、伊勢のスタートアップのインキュベーターの人たちと起業をしようという人たちが集まって、みんなが一緒に相談する場所を二軒茶屋餅のＩＳＥＫＡＤＯさんが伊勢に作っていただきました。港のすぐ近くです。そういう施設ができるとそこに集まってくる人が増えて、そこで起業してくれるのでそういうところに就職をする人も出てくるということで、仕事を作ることはとても大事なことです。

私も知事になって一生懸命にしているのは観光です。観光の予算も 2.5 倍ぐらいに増やしましたが、そこはやはり働き口があるからです。若い人が働く場所を作っていかないといけない。今、こうやって議論しているのはエネルギー、これから火力発電所がなくなって水力発電では限界があるし、太陽光もそろそろ限界なので、風力発電かなとも話をしています。風力発電は景観上の問題もあるので地元の了解が取れなければ全くやるつもりはないのですが、そういったもので働く場所を作っていかないといけないということで、そこにも目を向けながらやっていく必要があります。話がちょっと飛んでしまいました。高校をどうするかですね。

まず一番大事なことは子どもたちの学びです。人数が減ってくると競争もできなくなるので、すぐにその 30、35 人というのはできないと県教育委員会からは聞いており、私も専門家が言うのだからそうだろうと思っています。確かにお話のあったように 40 人でやっていましたので、人数が減ってくるとなかなか競争ができないので、学力も伸びていかないというのがあるかもしれない。ただ、鳥羽高校は総合学科ということで特色があるところでもあります。これから伊勢志摩地域活性化協議会で学校をどうするのか、これ私の地元の亀山市も人口が減ってくるのでちょっと危ないのですが、私らの一世代前の人たちにどうして人口が減らないような対策をしてくれていないのかと言いたいのですが、今、言ってもしょうがないので、とにかく今何ができるのかということを考えていかないといけません。協議会でしっかりと議論をしていただいて、どうしていくのかということを考えていくということになるしかないと思います。魅力のある学習環境を整備していけば、ひょっとしたら他の地域からここへ来てくれる人も増えてくるかもしれないし、いろんなやり方があると思

います。これから特に高校は無償化になりましたので、東京や大阪では先行的に進んでいますが、おそらく私立高校に人が流れていくと思います。そうはならないと教育委員会はいいますが、おそらくそんなことはなくて、当然流れていくと思います。その上で、公立学校をどのようにして維持していくのかということでなかなか難しい話になってくるかもしれません。北海道なんかですと、北海道立高校もやはり人数が減ってきてやめるとなったとき、町が維持しますといって町の負担で高校を維持しているところもあります。負担がものすごく大変だと思いますが、それでも町としてやると決められて、要するにその高校がなくなると賑わいがなくなるので、それを一定程度、道が支援をするということになっていると思いますが、やがて時間が経ってくると、そういうことも出てくるかもしれないとは思っています。それを見ながら、どんな形で高校を維持するのか、或いは維持しないとするとどんな形で子どもたちが学びの場を獲得していくのか、それをこれからしっかりと議論する必要があるのではないかと思っています。

（市長）

知事がお話されたことはもっともなことが多くて、とにかく子育てということでは、私も働く場所、住む場所がないといけないということで、来年度の予算では、子育てを中心にして、おそらく三重県でも指折りの子育て支援のトッププランナーになったのではないかと思っています。鳥羽市にはミジュマルもありますので、子育てのイメージアップも図りながら取り組んでいきたいというところです。

県立高校については、私も教員をしていたので、当然、一定の人数、学級数がないと多様な学習が保障できないということもあって、鳥羽高校の1学級については危機感を感じております。ただその地域によって、学級数はある程度、柔軟な運用をしていただいてもいいのではないのかなと思います。小中学校では、三重県教育委員会が国より先行して、35人学級を前に進めていただいておりますので、県立高校のほうも、そのような形で、やはり周辺のところほど、子どもたちの高校での学びが保障できない状況にあるので、そこのところを南勢地区全体での受け皿といいますか、そういうことで考えていただくとありがたいという感想でございます。よろしくお願いいたします。

対話項目（３）答志島における海岸漂着物対策の推進について

（市長）

22世紀奈佐の浜プロジェクトと名付けられておりますけども、これが始まって14年が経ちました。毎年、数百人の方が答志島の奈佐の浜、私の出身地で

ございますが、そこに漂着ごみがくるということで集まってゴミ拾いを行っています。伊勢湾全体で１万2,000トンのごみが流出されるとされていますが、推計によるとそのうちの5,000トンが三重県の沿岸に流れ着き、しかもそのうちの3,000トンはこの奈佐の浜がちょうど受け皿のようになって、漂着するとされています。22世紀奈佐の浜プロジェクトには、三重県だけに限らず、岐阜県とか愛知県からもお越しになり、伊勢湾に流れ込む流域の方々、住民の方、それから学生さんが多いのですが、年に１回、集まっていただいて、もう14年間で延べ5,000人の人数を超えたということで注目を浴びる場所でございます。

そこのごみの様子がこれですが、最近は、流木がちょっと目立つようになってきまして、これは河川の流域で森林の保全ができていないことの１つの現れかなと思います。もちろん雨の量も多いことから、洪水のような形でごみが漂着しております。それともう１つは、人間が出している発泡スチロール等のゴミ類も集まっており、これも収集している状況でございます。

奈佐の浜は、桃取港から歩くと30分以上かかるところにありますが、これだけ注目され、毎年これだけの人数の人が来ていただいており、できましたら、我々としては、ここを伊勢湾の海洋漂着ごみの環境教育をシンボライズする場所にしていきたいと思っております。先ほども話したように、ごみの量がこれだけあるので、ここで、海洋のごみ、漂着ごみについてのＰＲをやっていくべきだと考えております。ただ、30分ぐらい歩いていくのですが、今そこにあるのは、答志島の旧ごみ焼却場で、これが老朽化しており、鳥羽市の計画の中では除去する計画があるのですが、できましたらここに奈佐の浜プロジェクトで集まっていただく方々のトイレとか、或いは、ここを大学生とかが研究する方もいるので、その人たちがここで一定の研究の成果を展示できるような環境教育の１つのメッカといいますか、答志島に行けばこういう勉強ができるというような場所にしていただきたいと思っております。

毎回、私も参加させていただいておりますが、大学の学生さんたちも非常に盛んにここで感想を言っていただき、日頃の研究の発表もしていただきながら、有意義な時間を過ごさせていただいております。ぜひここを伊勢湾流域の全部、三重県だけではなくて岐阜県、愛知県も含めて、ここで環境の教育や勉強ができるというような場所にしていただきたいというお願いがございます。これはもちろん三重県だけではなくて、他県或いは国の支援もいただいて、ぜひ、そのような場所を作っていただきたいと思います。

１つ言い忘れましたが、ここのごみについてはストックヤードという形で、焼却場の中にも入れていますが、年に１回、三重県の方でこれを取りに来ていただいて、除却していただいているということがあり、そのことについてはお

礼を申し上げたいと思いますが、もう少し回数を増やしていただくとありがたいということでお願いもさせていただきます。以上でございます。

（知事）

私も奈佐の浜は、一度、私も見せていただきました。本当に沢山のゴミがくるのかと思っていましたが、１万2000トンのうち、答志島に3000トンで約４分の１、伊勢湾にあるゴミの４分の１が答志島に流れ着いて、そのほとんどが桃取の奈佐の浜にくるということで、確か秋頃に見せていただきましたが本当に沢山のごみがありました。ごみを出さないようにするのが一番なのですが、自然に川から流れてくる流木とかもあるので、そこはしかたがないということで、ごみの撤去費は、国の補助金で、離島の場合は10分の9、残りの10分の１も８割の特別交付税措置がつくので、トータルで98%、ほとんど国の予算でごみを処理できるということになっていますが、回数については承りましたので担当部署で検討するということにさせていただきたいと思います。

ごみは出さないようにすることが一番なのですが、やはりその次は、みんなでごみについての意識を高めるためにごみ拾いをするということ、私も東京周辺の江の島の方で海上保安庁の時にごみ拾いに行きましたし、知事になってからは志摩市でごみ拾いを行いました。おそらく奈佐の浜でも定期的にごみ拾いをされていると思います。沢山の人に来ていただいて、先ほど愛知県、岐阜県からも来てもらってということですから、その意識を高めていくというのが１つ。もう１つは、流木とかも多いのですがプラスチックのごみも多いので、これも若干時間がかかると思いますが、生分解性プラスチックの開発が進んでいくと海の中に流れ込んだプラスチックも自然界で分解されるということになるのでそれを進めていくことになると思います。今は、ゴミ袋もお金を出して買っているので、そのお金で生分解性プラスチック、生分解性というのは自然界で分解をしていくプラスチックということですが、それが開発されて、それだけになってくるとプラスチックごみがなくなるということですが、それにはまだ時間がかかるということです。

ごみを捨てない学習をしていくために答志島の清掃センターを活用したいということで、これについては、離島の場合、離島振興事業にかかる交付金がありまして、それを県庁の担当部署とよく相談をしていただきましたら、その交付金が使える可能性があります。その交付金は事業の２分の１の補助が出まして、例えばトイレの改修というのは、現にトイレがないといけないかもしれないのですが、今あるトイレを使いやすいようにする改修事業にもお金が出ます。これを志摩市で確か令和６年に改修した例もありますし、それから集会所みたいなものを改修するときもお金が出ますので、一度、相談をしていただく

というのも１つの方法かなと思います。

（市長）
　ごみの問題というのは、本当に昨今、鳥羽市としても大きな課題で、実はこの奈佐の浜は、私が小さいときは、アサリがすごく取れたのです。沢山取る人はバケツ１杯分ぐらいをあっさり取るぐらいのところだったのですが、そんな状態ではなくなって、アマモが少し生え出したということは聞いております。
　とにかくそういう環境問題にも関心を持っていただくには、非常にいい場所だと思っておりますので、先ほどのお話にもありました補助金も使いながら、施設面や環境教育もここで展開されるというのは、私としての望みであるので、また相談させていただきたいと思っています。毎年、奈佐の浜プロジェクトをやっており、またお誘いをしますので、ぜひお越しいただければと思っております。ありがとうございます。

鳥羽市営定期航路事業の船員確保について
（市長）
　ここから離島４島が見えまして、それぞれでやっぱり過疎化というのが非常に厳しい状況です。鳥羽市の高齢化率が 43%を超えまして、一番厳しいのが右手に見えます坂手島で、ここの高齢化率が 76%になりました。人口が減るということは、やはりインフラの整備が非常に厳しいということになりますが、特に離島の生活者にとって定期船の維持が非常に大変です。実はここで船が発着していますが４離島に行きます市営の定期船、全国的に公営でやっている定期船の乗客数は鳥羽市が一番多くて年間 50 万人以上の乗客数があります。それを維持するのはなかなか難しくて、人口減、それから船員が圧倒的に足らないということで、これは全国的にもいろんな話題を呼んでおります。あちらこちらで市営、公営が無理なことから民間に航路を譲ろうとしますが、民間の方もなかなか収益が上がらないということで撤退していくような状況が多く、鳥羽市の離島で生活している方にも、もう本当にその辺が非常に大きな課題でございます。我々としては、インフラということで交通の便については、当然、提供しなければいけないのですが、何よりも安全面が一番ですので、先日も国崎沖で船の事故があり、全国的にも２つ、３つ大きな事故がありまして、安全面に一番気を付けなくてはいけないことと、離島生活者の移動の利便性を確保することで非常にバランスが難しい状況です。
　今後、いろんな制度の改正も含めて、例えば、今は、定期船に乗務員が３名、航海士と機関士と客室常務が必要なのですが、この辺のところも制度改正をしていただいて２人でもいいようにできないのか、今 19ｔ以下ならば２人で

もいけるらしいですが、この船はそれ以上の大きさがありますので、その辺の制度改正も含めて、船の事故が続いておりますので簡単ではないと思いますが、その辺でこれから離島の定期船を維持するためにはどうしたらいいのか、或いは瀬戸内海なんかでは無人の自動運転の船がでてきたようにも聞いております。また、こちらの乗務員では、なかなか荷物の積みおろしも厳しいところがありまして、高齢化してくると重い荷物を船に乗せることができなくなり、できたらロボットみたいなパワースーツを着てもらって荷物を運んでいただけるような未来型のものも考えていかないといけないと思います。

とにかくいろんな課題がありますが、離島は鳥羽市の宝ですので、ここの生活者がきちんと生活維持ができていくように頑張りたいと思っていますので、いろいろとご指導いただきながら進めていきたいと思っております。今回は、情報の提供ということでお話させていただきましたのでよろしくお願いたいします。

（知事）

離島にとっては、定期船は本当に欠かすことができない交通手段ですが、今お話しいただいた、いろんな問題点があるのはよくわかります。これを担当しているのは国土交通省の海事局というところで、その局長は２年前に鳥羽の旅館で、私も含めて４人ぐらいで一緒に泊まったこともあり、今年７月までは配属されていると思いますので、一度、一緒に行って話をしてくるいい機会だと思います。私も船員の不足がそこまでになっているとは思いませんでしたので、これはきちんと伝えて、あと、制度の見直しはなかなか難しいと思います。この間も事故がありまして、あれは大きな船と小さな釣り船との事故ですが、船の事故は、北海道でもありましたし、この時期、これからちょっと増えてくるのではないかと思っていますが、まずそれを伝えないといけないので、資格的には難しいところがあるのではと思います。

ただ、無人船みたいなことができてくるといいと思いますし、それから、もう１つ、外国の方に働いてもらう、日本人は人口が減っていきますので、それを維持していくために、例えば、航路だとか鉄道もそうですし、自動車もそうですが、それを維持するためには、機械化していく、無人化していく、それとも外国の人に働いてもらうことも必要かなと思います。ただ、調べてみましたら船員の世界は、特に外航船はもう随分前からやっていますが、内航船は外国の人に働いてもらうのが難しいです。海員組合が強いというのもあるのかもしれませんが、ずっと反対していたバスとかトラックの世界も、今、外国人を入れるようになってきていますので、やがてそのように、ただ職域の問題があるので、これは長い時間がかかるかもしれません。市長から、このような話があ

りましたので、今度、来月ですけど、全国知事会からの要望の中に船員不足を盛り込ませていただきました。今回、このようなお話が出てきましたので、また今度、海事局長のところに２人で行って、こういう状況なので何とかならないのかという話をしたいと思っております。せっかく船もあるし、乗りたい人もいるのに、船員さんが足らないので運行できないというのは、本当に悲しい話ですので、何とかできないかという話を進めていきたいと思っております。

（**市長**）

私の方も、全国の離島センターとか、会議のたびにも発言をさせていただきまして、非常に共鳴していただく部分も多くあって、これは鳥羽市だけではなくて全国的に非常にそういう問題があるということで、市会議員らも、直接、国土交通省に行かせていただいて、すでに話をさせていただいているところもありますので、ぜひ、さらに強く要望していただければと思います。今後、何が正しくて何をするのがいいのかということはまだ模索中ではありますが、一緒に考えていただいて、離島の生活者には、まだ、しばらく離島でも生活できるという実感を持っていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。